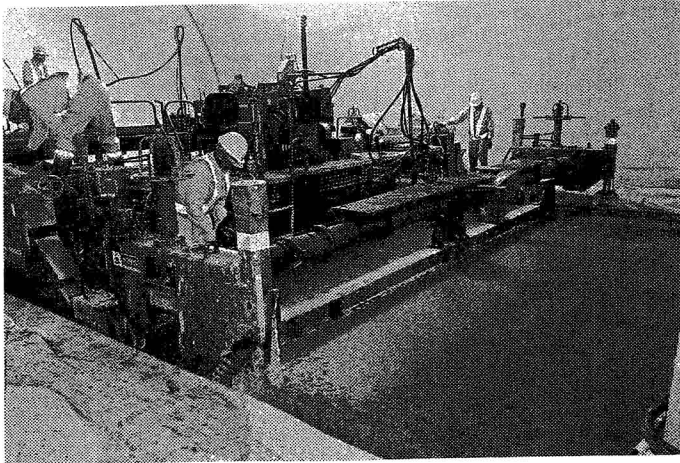


コンクリ舗装

勾配ある2車線同時

NETIS 設計比較対象技術に



両勾配同時仕上げ工法による作業

NIPPO

コンクリート舗装を2車線まとめて施工できるNIPPOの「両勾配同時仕上げ工法（セットフォーム工法）」が、NETIS（新技術情報提供システム）の「設計比較対象技術」に12年12月5日付で認められた。中折れ式の特種機械を使用するもので、傾斜のある2車線の舗装を同時に施工できる。東日本大震災の復旧・復興関連を除くと舗装市場は縮小傾向にある中、コンクリート舗装の工事量はほぼ横ばいで推移しており、NIPPOは同舗装関連の技術を積極的にPRする。

道路のコンクリート舗装は横断方向の「屋根傾斜」が多く、2車線の場合1車線ずつ施工するのが一般的だった。セットフォーム工法は、2車線同時施工に加えて、傾斜の変換機能もある専用機械を使用する。89年から施工に本格的に適用。99年にNETISに登録された、一般的な工法として利用されている。NETISの設計比較対象技術は、優位性と安定性が確認された技術に付与されるもので、設計時の比較対象に使われるほか、工事成績評定や総合評価方式の入札で加点措置が講じられる。セットフォーム工法については、同時仕上げによる工期短縮やコスト低減の効

果、品質・出来形が高く評価された。

NIPPOによると、02年度以降、同社のコンクリート舗装の年間平均施工実績は15万平方メートルに達し、12年度は既に10万平方メートルを超えている。07年度以降は、コンクリートを提供しながら、型枠を供給せずに2車線両面勾配の同時仕上げが可能で「スリップフォーム工法」（04年NETIS

S登録）の採用が増加。11年度はコンクリート舗装の施工面積15・5万平方メートルのうち11・7万平方メートルがスリップフォームとなった。コンクリート舗装は国土交通省が積極的に採用する方を打ち出しているため、同社はセット、スリップ両工法による工事受注に一段と力を入れる方針だ。

日刊建設工業新聞
平成25年1月10日掲載